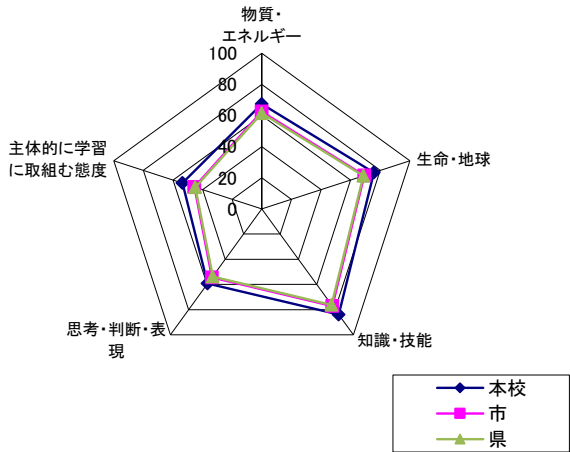


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	67.4	62.5	61.5
	生命・地球	75.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	83.9	77.2	76.3
	思考・判断・表現	59.3	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は67.4%で、県より5.9ポイント上回っている。 ○「光のせいしつ」の「水を入れたペットボトルが光を集めたことを、虫眼鏡に適用できる。」の正答率は64.4%で、県よりも15.6ポイント上回っている。 ○「電気の通り道」の「電気を通す物と通さない物」の正答率は83.3%で、県よりも11.6ポイント上回っている。 ○「電気の通り道」の「回路について理解している。」の正答率は90.0%で、県よりも21.4ポイント上回っている。 ○「じしゃくのせいしつ」の「方位磁針の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述できる。」の正答率は36.7%で、市よりも11.6ポイント上回っている。 ●「光のせいしつ」の「鏡で反射した光を重ねたときの温度の変化を推測できる。」の正答率は72.2%で県よりも7.5ポイント下回っている。 ●「じしゃくのせいしつ」の「自由に動けるようにした磁石のN極は、北を指すことを理解している。」の正答率は33.3%で、県よりも1.6ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・全体的に、基礎的な知識や技能は定着している。一方で、それらを応用して考えることに課題がある。問題の解き直しをするとともに、問題場面に合った実験に取り組ませて理解を図るようにする。 ・「光の性質」や、「磁石の性質」について復習し、更なる知識・理解の定着を図るとともに、理科学研究などに結び付いた内容を提示して応用力を身に付けさせていく。 ・観察や実験をするときに、その目的や手順、結果をしつかりと押さえた考察ができるように支援する。 ・観察や実験の授業では、キーワードを提示し、それを用いて考察文を書くことに慣れさせる。 ・科学的な見方・考え方を働かせられるよう日頃から科学的事象に目を向けるよう指導する。
生命・地球	○平均正答率は75.7%で、県より7.1ポイント上回っている。 ○「身近なじぜんのかんさつ」の「虫眼鏡の使い方を身に付いている。」の正答率は62.2%で、県よりも11.3ポイント上回っている。 ○「植物の育ち方」の「ホウセンカの子葉を理解している。」の正答率は97.8%で、県よりも11.4ポイント上回っている。 ○「こん虫の育ち方」の「完全変態と不完全変態の昆虫を理解している。」の正答率は78.9%で、県よりも12.6ポイント上回っている。 ○「こん虫のからだのつくり」の「体の特徴から、昆虫か昆虫でないかを判断できる。」の正答率は91.1%で、県よりも19.8ポイント上回っている。 ●「太陽と地面のようす」の「日なたと日かげの地面の温度の様子をもとに、日傘の下のほうが涼しく感じる理由を推測できる。」の正答率は32.2%で、県よりも2.0ポイント下回っている。	・各単元を通して、学習内容を日常生活に結び付けながら学習を進め、自然の事象から物事が考えられるように指導していく。 ・「太陽と地面のようす」の内容について、日かげのほうが温度が上がりにくいので、涼しく感じられることを日常生活と関連付けて考えられるように指導する。 ・問題文を正しく読み取ることができるよう、国語科との関連を図りながら、文を正しく読み取ることができるようになる。 ・自然観察をする際は、めあてや観察のポイントを事前に提示し、自然現象について興味・関心を高めてから、活動に取り組めるようにする。また、ICTを取り入れ、学習内容の向上や、意欲の高揚に活用する。